

唇裂・口蓋裂の治療について

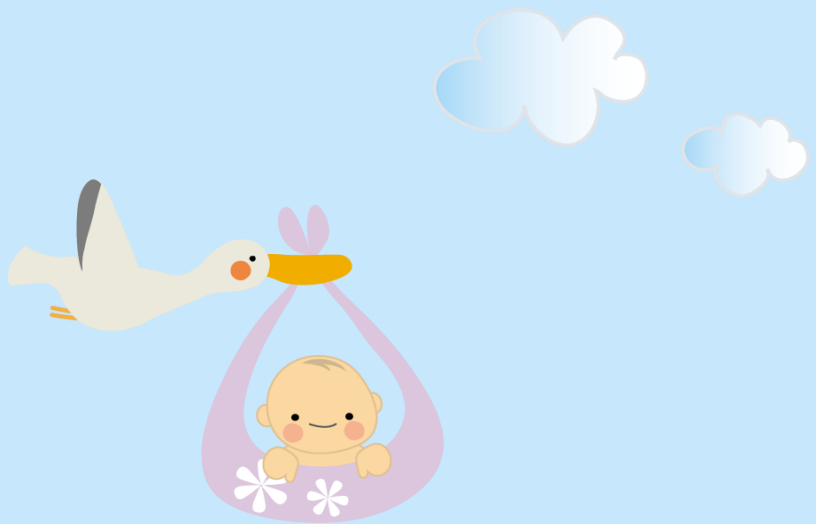
加古川中央市民病院

唇裂・口蓋裂治療チーム



< 目次 >

- はじめに 1P
- 目次 2P
- 唇裂・口蓋裂について 3P
- 唇裂・口蓋裂で問題となることと、その治療について 5P
- 治療費について 6P
- 唇裂・口蓋裂治療の流れ 7P



< 唇裂・口蓋裂について >



1. 分類

唇裂

唇がわれている状態のこと。上口唇にわずかにくびれがあるだけで、鼻もほとんど変形がないような軽い状態から、上口唇だけでなく歯茎(はぐき)のところまで割われていて、鼻も強く変形しているような状態の重い場合まであります。

口蓋裂

唇がわれていなくて、口の中の上顎(うわあご)だけが割れている状態のこと。口と鼻を隔てている境がなく、口と鼻がつながっています。上顎(うわあご)の後ろ側(軟口蓋(なんこうがい))のみがわれている状態から前側(硬口蓋(こうこうがい))までわれている場合があります。

唇顎口蓋裂

唇から上顎(うわあご)を含めて口蓋垂(こうがすすい・のどちんこ)までわれていて、唇裂と口蓋裂が合併している状態のこと。

唇裂や唇顎口蓋裂の場合は、唇のわれが片側にだけ起きている場合と、両側に起きている場合があります。

2. 発生原因

赤ちゃんの唇は妊娠3か月頃に唇の元になる部分や口蓋の元になる部分が癒合することで作られます。しかし、何らかの原因で癒合がうまくいかなかった場合に唇裂・口蓋裂になります。唇裂・口蓋裂の発生には多数の因子、原因が関与しているらしいことが知られています。

全くの偶然による要素、母体の何らかの環境因子、何かの薬剤、唇裂・口蓋裂を発生しやすい傾向を遺伝的に持っていた、などのそれぞれの小さな原因が積み重なった結果、それが一定の限界を超えたとき発生すると考えられています。

唇顎口蓋裂をもって生まれてきた一人の赤ちゃんに、遺伝的影響がどれくらい関係していたかははっきりしていません。

3. 発生頻度

唇裂・口蓋裂の赤ちゃんは、日本では約500人に1人の割合で生まれており、生まれつきに起きる病気の中では最も多くみられる病気の1つです。ご両親やご家族のどなたかにこの病気の方がいらっしゃる場合は、その頻度は通常より少し高くなります。また、これまでの国内や国外の報告では1人目のお子さんが唇顎口蓋裂の場合、次に生まれてくる子どもに同じ病気が起こる確率は40人から50人に1人といわれています。

< 唇裂・口蓋裂で問題となることと、その治療について >

哺乳

唇裂・口蓋裂のお子さんでは唇がわれていると乳首を口でくわえにくくなり、上顎がわれていると母乳やミルクを吸う力が弱くなります。唇にテープを貼ったり、形状を工夫した乳首(にゅうしゅ)を使用することでほとんどのお子さんが上手に哺乳できるようになります。当院ではできるだけ口蓋(こうがい)床(しょう)(ホツツ床)を作成して、装着してもらっています。口蓋床であごの割れ目をふさぐことで母乳やミルクが飲みやすくなり、あごの発育を助けます。

整容

唇がわれている場合は、整容的な問題があります。きずあとを全く残さずに治療することは出来ませんが、目立つきずあとやひきつれが残ることはほとんどありません。個々の手術方法については、お子さんの状態に合わせて最適な方法を行います。

ことば(言語・発声)

唇だけがわれている唇裂のみの場合は、ことばが問題となることはほとんどありません。しかし上顎がわれている口蓋裂や唇顎口蓋裂の場合には、適切な時期に口蓋を閉じないと発音の問題がおきてしまいます。通常は、言葉が出てくる時期にあわせて1歳～1歳半くらいで、口蓋を閉じる手術を行います。そして4歳くらいから小学校入学までは、集中して言葉の訓練を、専門の言語聴覚士が行います。

歯と咬み合わせ

歯茎や上顎がわれている場合は、われている部分に出てくるはずであった歯が生えず、歯の本数が少なくなったり、歯がねじれて生えてきて歯並びが悪くなりがちです。またこういうお子さんは上顎全体の発育がよくないことが多く、上顎がひっこんで下顎が前に出ているいわゆる“受け口”と呼ばれる咬み合わせになりやすい傾向があります。このため、矯正歯科治療がほとんどの場合に必要となります。またほとんどのお子さんが7～10歳くらいであごの裂を閉じる手術を受けます。当院では地域の矯正歯科医と連携して治療を行っています。

滲出性中耳炎

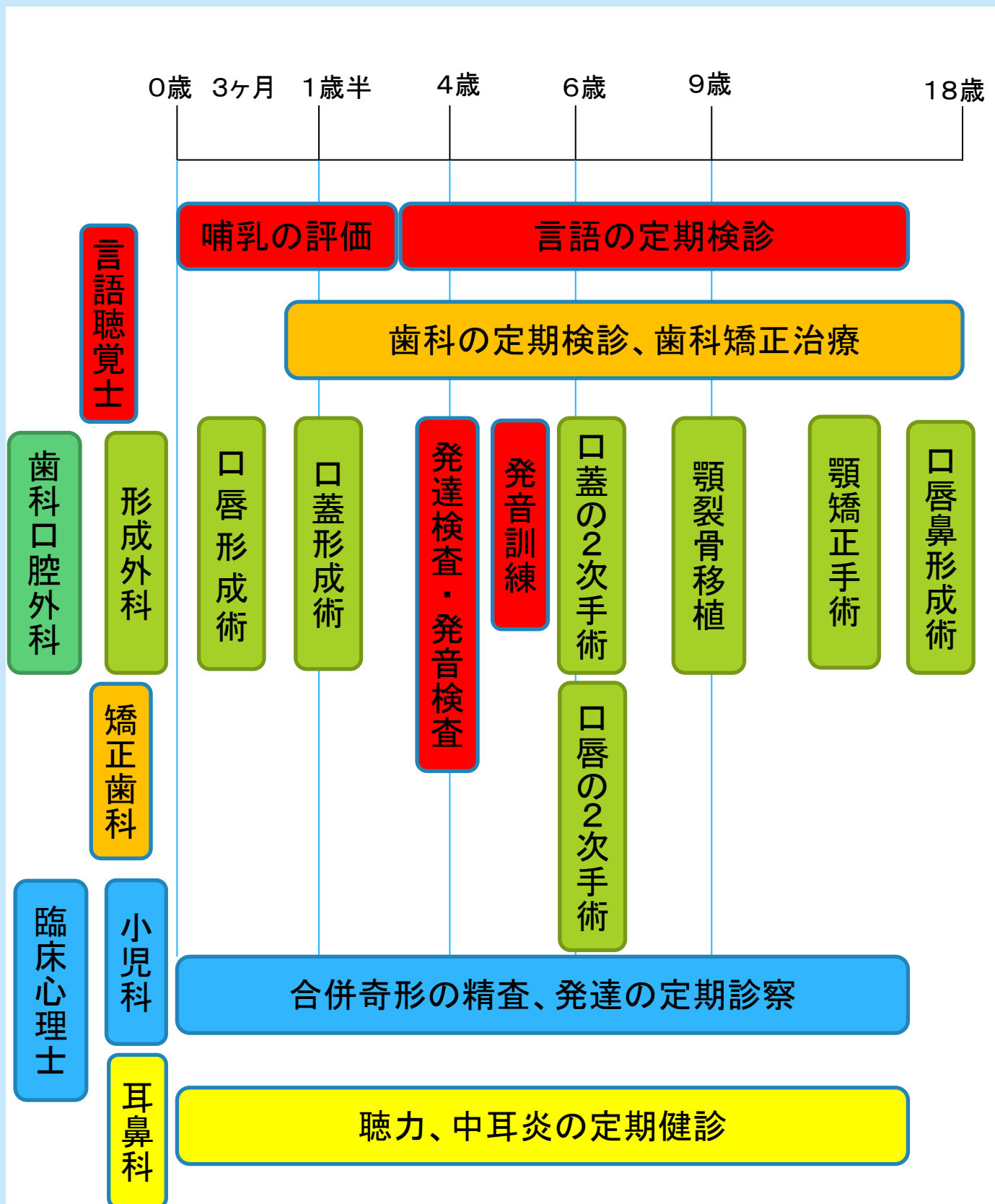
口蓋裂のあるお子さんでは、耳と鼻をつないでいる管(耳管)の働きがよくないために、鼓膜の奥(中耳)に水が溜まってしまう滲出性中耳炎にかかりやすくなっています。通常、8歳から10歳頃になると成長によって自然と軽快してきますので、それまでは中耳炎が悪化していないか、定期的に耳鼻科医の診察を受けていただきます。

< 治療費について >

唇裂・口蓋裂のお子さんの場合、治療は歯列矯正も含め、全て健康保険の対象です。さらに各地方自治体の乳幼児医療補助や生まれつきの病気のお子さんに適用される育成医療制度を用いることができる場合もありますので、治療費に関することについてはご相談ください。



< 唇裂・口蓋裂治療の流れ >





地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

〒675-0037 兵庫県加古川市加古川町本町439番地
TEL: (079)451-5500(代)
FAX: (079)432-3672(代)